



日医報告

平成27年度

家族計画・母体保護法指導者講習会

北海道医師会母体保護法指定医師審査委員会
副委員長 丸山 淳士

平成27年11月28日(土)、日本医師会、厚生労働省の共催による上記講習会が例年どおり日本医師会館大講堂において開催された。

今村定臣日本医師会常任理事の司会の下、日本医師会会長、厚生労働大臣から挨拶があり(いずれも代読)、次いで木下勝之日本産婦人科医会会長より来賓挨拶が行われ、直ちに講演に入った。

講演は座長を日医母体保護法等に関する検討委員会委員長で熊本県医師会長の福田稠氏が務め、国立

成育医療研究センター理事長の五十嵐隆氏より「わが国の成育医療の課題と健やか親子21の果たす役割」と題して講演が行われた。

成育医療とは妊娠・胎児(生殖医療・胎児医療)→新生児(周産期医療=産科・新生児)→小児(小児医療・救急医療)→思春期(思春期医療)→成人(トランジション:移行)→母性・父性(母性医療)のすべてを包含する医療のことで、そこにわが国の課題と健やか親子21の果たす役割が十分に効果を上げるためには、どのようにしたらよいかを具体例を交えて分かりやすく講演された。

健康、教育、栄養の三大要素の他、5歳未満の死亡率、就学率、低体重児童の比率などで決定されるThe Child Development Index (CDI)2012では日本が第一位でIndex 0.35、二位がスペインで0.55、三位はドイツが0.64で日本は世界一であるのだが、果たしてこのままでよいのだろうか。子どもの心の健康度と幸せ度を見てみると、学校には飽きるとの回答が30%、寂しいと感じる者は10%で、世界では日本は真ん中以下の順位であり、人間関係が希薄となった日本の社会を反映しているようである。高齢者の孤独死が増え、自殺者がOECD諸國中2位でそれを証明している。

少しずつ減少はしているが相変わらず子どもの事故(傷害)は多く、1歳以上の子どもの疾患別死因の上位を占めている。事故が起きた環境や製品への対策がなされなければ子どもの傷害は減らせない。しかし、必要なデータがきわめて少ない現状である。

また、子どもの貧困問題と小児虐待も多く、わが国はOECD35カ國中9番目に子どもの貧困率が高い。

「一人親家庭」が増加しており、中でも母子世帯の貧困が著しい現状がある。

予防接種体制の充実により感染症患児は確実に減少している。しかしそれと同時に慢性疾患(障害)を持って思春期・成人期に移行する子どもも増加している。従って、老人医療のような小児・青年の在宅医療支援が今後重要な課題となる。

英国では「子どもホスピス」であるヘレンハウス、ダグラスハウスなどボランティアによる活動が基本で運営されている。日本では成育医療研究センター内で「もみじの家」事業を行い支援している。

保育環境の整備もなお必要であり、保育施設の感染症対策の充実も望まれる一方、病児保育事業への支援も必要である。

思春期医療もわが国では遅れをとっていて、日本小児科学会は思春期医療の整備を目指している。15歳までしか診療の対象としていない現状を21歳まで小児科で診療する体制と教育が必要である。

小児慢性特定疾患・指定難病事業も充実が望まれる。米国におけるMedical Home(患者中心の医療ホーム)とBright Futures(米国小児科学会が示す子どもの健康を増進するためのhealth check-up

表

平成27年度家族計画・母体保護法指導者講習会プログラム	
	日時:平成27年11月28日(土)13:00~15:00 会場:日本医師会館大講堂
1. 開 会 (13:00)	司会:今村 定臣(日本医師会常任理事)
2. 来賓挨拶 (13:00~13:10)	横倉 義武(日本医師会会長) 塩崎 恭久(厚生労働大臣)
3. 来賓挨拶 (13:10~13:15)	木下 勝之(日本産婦人科医会会長)
4. 講演 (13:15~14:00)	座長:福田 稠(日医母体保護法等に関する検討委員会委員長・熊本県医師会会長) 五十嵐 隆(国立成育医療研究センター理事長)
5. シンポジウム (14:00~16:00) ※各シンポジスト20分	座長:今村 定臣(日本医師会常任理事) 高瀬 幸子(日本産婦人科医会常務理事)
	テーマ「若年妊娠について」
(1) 若年妊娠の全体像と課題	安達 知子(総合母子保健センター愛育病院副院長・産婦人科部長)
(2) 若年妊娠と児童虐待	光田 信明(大阪府立母子保健総合医療センター産科主任部長)
(3) 若年妊娠者に対する社会的支援	水主川 純(聖マリアンナ医科大学病院産科副部長)
(4) 性教育でできること	種部 恭子(女性クリニックW富山院長・富山県医師会常任理事)
(5) 指定発言一行政の立場から	一瀬 篤(厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長)
討 議 (15:30~16:00)	
6. 閉 会 (16:00)	

program) を見習って、慢性疾患を持つ子どもの充実した管理を取り入れる必要がある。

将来に望まれるわが国の小児医療・保健として、小児科医の基本的スタンスの変更が切に望まれるところである。予防医学を推進し、健康問題への早期対応ができる健診を若年成人まで延長することが望まれ、学校健診などは個別健診を基本とするように変更されなければならない。

このようなことから「健やか親子21」の果たす役割は大きい。21世紀の母子保健の主要な取り組みを提示して、関係機関・団体が一体となってその達成に向けて取り組む国民運動計画のことで、「健康日本21」の一翼を担うものである。重要な課題ではあるが、現時点で国家の予算はついていないのである。すべての子どもが健やかに育つ社会の実現に向け「健やか親子21」の活動に協力することで母子保

健を推進し、将来的には「成育基本法」の成立を目指していきたい。現状では、65歳以上の高齢者への国からの支出と21歳以下の支出を比べると18：1の割合となっている。

続いてのシンポジウムは「若年妊娠について」というテーマで、座長を今村定臣、高瀬幸子両先生の下、シンポジストとして、安達知子（総合母子保健センター愛育病院副院長）、光田信明（大阪府立母子保健総合医療センター産科主任部長）、水主川純（聖マリアンナ医科大学病院産科副部長）、種部恭子（女性クリニックWe富山院長、富山県医師会常任理事）、一瀬 篤（厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長）の各先生から、若年妊娠と児童虐待の現状、社会的支援、性教育、行政の立場から現況や意見を述べられ、有意義な討論が行われた。

お知らせ

北海道ドクターズゴルフ50周年記念大会 開催のお知らせ（予告）

標記大会は、札幌市医師会の担当で下記のとおり開催することになりましたので、多くの会員にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

なお、参加申込につきましては、北海道医報3月1日号および4月1日号に申込書を添付いたしますので、ご利用の上、お申込ください。

記

【前夜祭】

平成28年7月2日（土）
午後6時30分～午後8時
札幌パークホテル
（札幌市中央区南10条西3丁目）
TEL011-511-3131

【大会】

平成28年7月3日（日）
午前6時53分スタート
札幌国際CC 島松コース
（北広島市島松49-5 TEL011-376-2221）

競技方法：18ホールズストロークプレイ
（アンダーハンディ）

参加資格：北海道医師会員
（公式ハンディがなくても参加可能）

参加申込：北海道医報3月1日号または4月1日号附録の「参加申込書」にてお申込ください。

宿泊：宿泊につきましては、観光シーズンでもあり宿泊施設の斡旋が困難ですので、各自にてお早目の手配をお願いいたします。

問合せ先：〒060-8581
札幌市中央区大通西19丁目
札幌市医師会内
北海道ドクターズゴルフ50周年記念大会事務局（担当：三越・柿澤）
TEL 011-611-4181
FAX 011-643-1511